

国連エイズ合同計画と連携協定

聖路加国際大学

聖路加国際大学（東京都中央区）と国連エイズ合同計画（UNAIDS、本部スイス・ジュネーブ州）は



協定を交わした糸魚川順理事長（右）とガニラ・カールソン 副事務局長

11月30日、同大にて連携協定の調印式を執り行った。

これは、アジア太平洋地域および日本でのエイズ流行の終結に向けて、協力関係を二層強化することを目的として取りまとめられたものだ。

エイズはHIV（ヒト免疫不全ウイルス）に感染することで発症する病気で、人体の免疫の仕組みの中心である白血球が破壊されて免疫力が低下し、本来なら自分の力で抑えられるさまざまな病気を発症するようになる。HIVに感染しても自覚症状のない時期（無

協定調印式では、参加者間で意見が交わされた



症候期）が数年続いたため、エイズの大規模な流行を防ぐには多くのひとがHIV検査を受け、自身の感染の有無を知ることが重要だといふ。

同協定は、世界のHIV感染対策の取り組みを強化・推進する国連機関であ

るUNAIDSのガニラ・カールソン副事務局長と、看護保健・公衆衛生の領域において「国内外のすべての人の健康と福祉に貢献する人材の育成」を目標に掲げる聖路加国際大の糸魚川順理事長との間で取り交わされた。

当日には協定締結を記念したセミナーも実施され、ガニラ・カールソン氏による「エイズ流行の終結とユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の進展加速に向けた道のり」と題した講演が行われた。

UHCは、すべての人が経済的な困難を伴うことなく保健医療サービスを受容することを旨とする。エイズ流行の終結と共に「持続可能な開発目標（SDGs）」のターゲット

の一つとして位置づけられている。カールソン氏は、エイズ流行の終結とUHC達成に向けたメッセージを訴えかけた。

そのほか、東京大学（東京都文京区）の岩本愛吉名誉教授によるHIV感染の治療と予防についての講演や、同大のギルモア・スチュアート公衆衛生学教授によるアジアでのHIV・エイズの疫学状況についての講演も行われ、来場者は熱心に耳を傾けた。

今後、聖路加国際大とUNAIDSは同協定に基づいて、アジア太平洋地域におけるHIV・エイズ研究を協働して推進するといふ。両者の連携により、人びとのHIV・エイズへの理解が進むことが期待されている。